

波紋



Ripple

2014年
4月

創刊

1985年(昭和60年)7月

No. 346号

～新入社員自己紹介～

村上 美和子 (東京オフィス)

よりによつてこのタイミングで原稿書けなくて度胸があるなと思いつつ、せっかくなので波紋を呼ぶような投稿をひとつ。というのは冗談で、ご依頼通り簡単な自己紹介をいたします。大阪で生まれ育ち、高校卒業後に渡米し、サンフランシスコ大学卒業。南米に留学したり、西欧諸国や東南アジアにも行きました。帰国後は上京し、音楽やアートディレクションを基盤に生活してきました。一昨年の秋に黒松さんに出会い、直感で仕事を引き受けることにしました。そして去年の秋に結婚を機に因島に引越し、今年森松に入社してから生活が一変しています。まだまだこれからだと思っています。というわけで、村上になったばかりの美和子です。でもまさか日常的に「村上さん」と呼ばれることになるのは予想外でした。正直違和感があります。そこでお願いです。旧姓で呼んで下さいと言いません。せめて「美和子さん」と呼んでほしい。英語で言うところのCall me Miwako!です。どうぞよろしくお願いします♡



柳原 瞬 (森松産業)

去年の7月に入社しました、柳原瞬です。生まれも育ちも緑区です。一人暮らしの経験もありません。趣味はサッカー鑑賞で、主に海外のクラブチームを応援しています。サッカーが好きすぎて英語もまったくできない状態で1ヶ月間イギリスにサッカー鑑賞だけのために行っていたこともあります。前職は情報系の仕事をしていました。保守的なことやデータ管理、データ操作、ネットワーク管理などを行ってきたので、パソコン操作と暗算は得意です。裁断部とはまったく異なることをしていたので、その点では今の仕事はなにかもが新鮮で楽しみながら仕事を覚えています。入社した当初は何もわからない状態で全てのことがゼロからのスタートでした。今では半年以上がたち、少しずつですがビニール(プラスチック)の性質や種類を覚えはじめ理解が深まってきました。入社後すぐに裁断部に配属され、営業、配送、要工場のことなどわからない点はまだまだ学ぶべきことが多くあります。至らぬ点が多いとは思いますが、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



やり方・仕組みを考える

社長 森 直樹



3月、4月は一年で最も商品の出荷量が多く、それに伴い普段発生しないような間違いが起る事が発生します。一旦クレームが発生すると、その修正作業も必要となるだけでなく、一番大切なお客様からの信用を失ってしまいます。幸い、私達の納入先は首都圏・関西圏など半日車を走らせれば到着できる場所にあるので、納入先へ出向いての交換対応などもすぐに行うことができます。しかしこれも言うまでもなく時間とお金と労力がかかります。本ではなく海外だったら？また国内でも北海道や沖縄だったら？さらに大変なことになります。「間違えないように注意する」だけではなく、「間違えないようなやり方」を考え、そのように改善していきましょう。作業指示の方法から実際の作業、そして作業時の確認の方法まで、間違えやすいと思っただけは改善していきましよう。効率面から考えると、やり方を変えることにより不便になることも発生するかもしれませんが、間違いの起るようなやり方は正しくありません。また繰り返すようなやり方があることも、うっかりミスを防ぐためには必要です。問題の発生しない方法を突き詰めていくと、手間を掛けるという事にもなります。しかし間違いのない商品を提供するためには必要な事となります。製造者とお客様、お互いに安心できる関係が構築できるような、間違いのない商品を提供し続けていくことを目指しましょう。

旅が好き

加藤 雅昭 (営業部)



私は旅が好きだ。知らないところ、会ったこのない人たち、二度と見れないかもしれない景色、何もかもが新鮮で心地よい。大勢で行く旅行も楽しいが、基本的には一人旅派だ。昔々、少年キングで「サイクル野郎」という漫画があった。中学生が自転車で日本を一周するというものである。そこで私の知らないいろいろな場所や風景、人との出会いなどがつづられていました。私も小さいころから父にいろんなところに連れて行ってもらい旅(旅行)が好きだったこともあり、毎週楽しみに読んでいました。しかし小学生のころから剣道・水泳を始めてしまい大学4年のシーズン後に終わるまで遠征以外での旅はできませんでした。そこで4年のシーズン後に単車を購入、ただ自転車では時間がないのであくまで交通手段として選びました。ホンダCB350、そのままではちよつと遅いので、エンジンを手直しして選びました。キャブを交換などちよつと早くするようにしました。(といっても原付はあくまで制限速度30km・・・ですが)大学時代これで九州一周・中国地方一周など自分の知らないところをいろいろ走りました。宿は当然ユースホテル。多くは一人旅でそこでの夜のミーティングや会話はとても楽しく有意義な時間です。その後車で四国一周、新相棒の中古ホンダドリームCB350で軽井沢、能登、伊豆等に行きました。ところがこの中古で買ったCB350、スタイルは非常に気に入っていたのですがいかんせん 重い、乾燥重量172kgの27馬力、走らない曲がらない止まらないの三重苦・・・雨の日は握力と踵ブレーキをフルに使用してちよつと止まる制動力。八ヶ岳のワインディングでアクセルワイヤーが切れ、直接ワイヤーを引っ張りながら走ったり、パンクで5km以上押ししたりなど、とてもとても思い出が詰まったバイクでしたが、さすがに危ない・・・思いきって新車でCB350を購入し今に至ります。こいつとは東北一周・北海道2回、日本海方面等いろいろ走りましたが、さすがに26年選手、ホイール交換、キャブのオーバーホール等々いろいろと手間がかかってきましたがいまだに手放せません。春先・・・ふと旅に出なくなってしまう。北へ、南へ行きたいところはいつぱいあります。藍より青くの牛深、阿蘇の外輪山、伊豆、恐山、北海道・・・美瑛や美深・・・行きたいなあ・・・美瑛はやっぱ夏だろうな。あの丘中ひまわりの中を走っていると本当に癒されます。泊りは麓郷のライダーズハウス、大将元気かな・・・またいつか旅を始めたいと思います。再びあの景色を見るために、もういないかもしれない仲間を探しに、それまで元気でないきやな。あ、そういえば サイクル野郎って沖繩にわたって・・・続編がないような・・・続きは自分で旅をして確かめろってことかな。

「子どもが育つ魔法の言葉」

牧野 光昌 (企画営業部)



米国のドロシー・ロー・ノルトという人が書いた「子どもが育つ魔法の言葉」の中に『子は親の鏡』という有名な詩がある。私の娘が二人目の子供が生まれた頃にこの詩を何度も読んでいた。(今から1年ほど前のことです)。自分がこの年代のころは仕事も生活も一生懸命で父親として子育てにどれくらい関わったか定かでありませんが、娘がこんな詩を読んでいる姿をみて、自分の娘ながら、ちよつと見直したものです。『子は親の鏡』けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる。とげとげした家庭で育つと、子どもは乱暴になる。不安な気持ちで育てると、子どもは不安になる。「かわいそうな子だ」と言っていて育つと、子どもはみじめな気持ちになる。

【中略】

子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ。やさしく思いやりをもつて育てれば、子どもはやさしい子に育つ。守ってあげれば、子どもは強い子に育つ。和気あいあいとした家庭で育てば、子どもはこの世の中はいいところだと思えるようになる。私もこそつと読んで、実は反省してしまいました。俺はちゃんと父親をやったんだらうか・・・と。子供は親のいろんな良い所と悪い所をすべて見ながら、すべて吸収し、その中へ親とは別の空間での経験や独自の感情を込めて自己確立をしていきます。この誌がいう所の「いい世の中」というのは、まずは「いい家族」なんでしょう。そしてそれは「親子愛」でもあるが、それ以上に「夫婦愛」なんでしょう。そしてそれらが両立した「家族愛」こそが、この誌の中の「いい家族」なのではないのでしょうか。この誌を読んであらためて奥さんに感謝しました。「子どもが育つ」にはもつと多様な事が必要となりますが、長い文章ではありません。これから子育てをされていく人は、暗記するほど読んでみて下さい。きっと何かが変わると思います。ネットで全文が見られます。

【子どもが育つ魔法の言葉】 <http://goo.gl/TqKMF>

